Ｐｏｉｎｔ

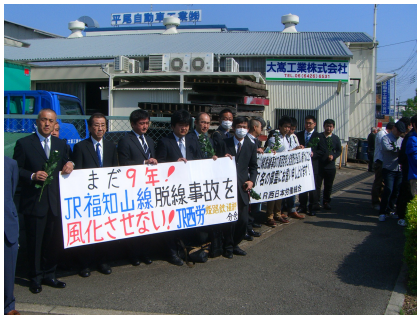
ＪＲ東海労大阪修繕車両所分会分会情報
Ｎｏ．２０１　　２０１４．０４．２８．
発行責任者　　乾　眞規
編集責任者　　教　宣　部

JR福知山線事故現場での慰霊行動に参加してきました！

私たち修繕分会は、４月２５日、ＪＲ東海労本部高原副委員長を代表として、関西地本、各分会の仲間と共にＪＲ西労主催のＪＲ福知山線事故現場慰霊行動に参加してきました。

当日の事故現場では、電車が激突したマンション前の献花台で深々と頭を下げるＪＲ西日本社員、そして、花をたむけるご遺族や被害者らが涙ながらに苦しく悲しい日々をマスコミ取材で語っている姿があり、切なく胸の締め付けられる思いをしました。

私たちは、事故現場線路沿いの歩道のところで、事故発生時刻の９時１８分の黙祷時間を待っていました。すると目の前を通過する電車が速度を落とし、警笛を大きく鳴らしながらゆっくりと通過していきました。その電車の中では多くの乗客の方々が手を合わせていました。そして、私たちも全員で黙祷をささげ犠牲者のご冥福を祈るとともに、もう二度とこんなに多くの方々が悲しい思いをするようなことがないように、尊い命を預かる鉄道輸送の重責を全うすることを強く誓いました。



JR福知山線事故を風化させない思いを新たにした！

慰霊行動終了後、場所を福島区民センターに移して、『ＪＲ福知山線脱線事故から９年、経営陣の経営責任追及！営利優先・運行第一・社員への責任追及・労使癒着の不安全な企業体質を一新する集会』が開催されました。集会では、ご遺族の方から、「娘と同じ年頃の人を見ると、孫がいるのかと、９年たっても、本当につらく悔しく悲しい気持ちになります」「日本の刑法では、大きな組織の責任を問う、法人処罰は認められていないので司法制度の改革をすすめて組織罰をつくりたい」などの訴えがありました。

国土交通省航空・鉄道事故調査委員会は、２００７年６月に「最終報告書」を公表し、運転士のブレーキ手配が遅れた原因として日勤教育や懲戒処分など「ＪＲ西日本の懲罰的運転士管理方法が関与した可能性がある」と結論づけています。まさにこの事故は、安全対策を労務管理で乗り切ろうとしたＪＲ西日本の経営方針が引き起こした事故であり、経営幹部の責任は明白なのです。私たちは、二度と鉄道事故による悲劇を繰り返さないために、ＪＲ福知山線事故を風化させることなく、ご遺族や被害者らとともに営利優先・運行第一・社員への責任追及の不安全な企業体質を一新するために職場から共に闘っていく決意を新たにしました。